

小学校区からさらにエリアを絞り込み、自治会や町内会として相互扶助により助け合っているコミュニティ単位や、特定の施設を徒歩で利用できる圏域などでの人口の動向について正しく理解し、歩いて行き来できるほどの身近な地域の状況を把握することで、「日常生活の中でのたまり場」や「相互扶助活動」について考えるよう促すことができます。

### データ例① 国勢調査小地域集計による町丁・字等別の人口特性

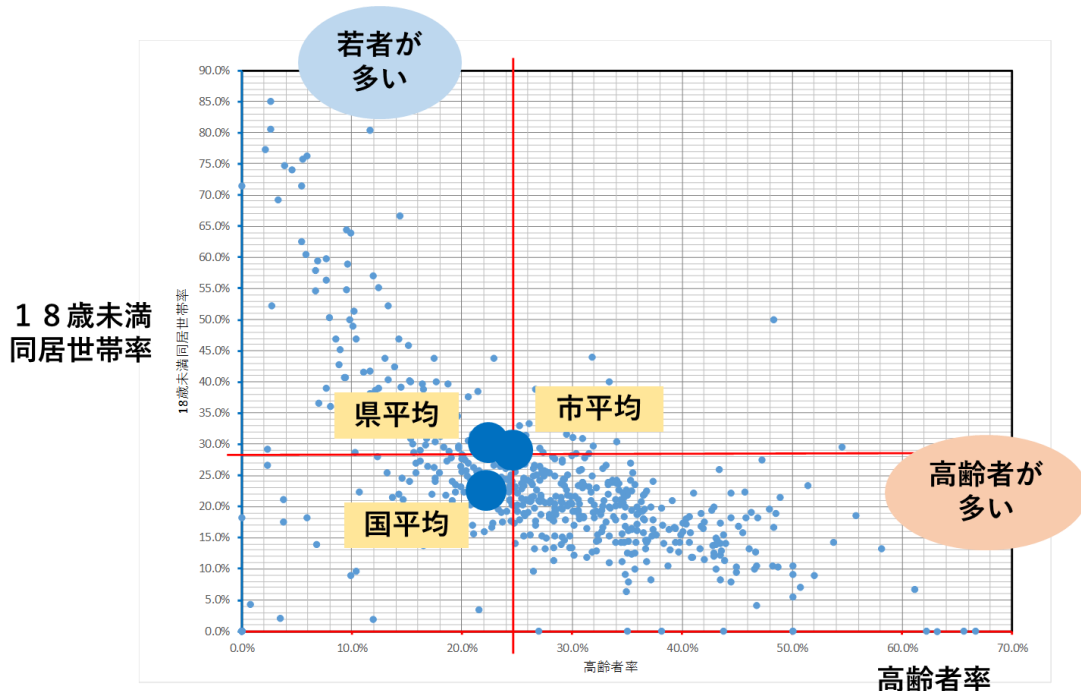
国勢調査の小地域集計が公開されており、町丁・字等別の細かい単位での人口特性を把握することができます。

特に、地区の高齢化の状況や子供のいる世帯の割合を把握することで、活力の低下の状況を数値で的確に把握することが可能となるばかりでなく、類似した地区との合同会議や、高齢化の“先進地区”を訪ねて現時点で取り組んでおくべき事項を学ぶなど、自治体内の多様な地区との連携を模索する上でも役立ちます。

さらに、平成 22 年の年齢階級別人口との比較に基づくコーホート人口推計や、住民基本台帳に基づく町丁・字等別かつ 1 歳階級別の人口推計を活用することにより、地区の将来の人口特性をより細かく把握することも可能です。

#### ■町丁・字等別の高齢者率と 18 歳未満同居世帯率の分布状況

(平成 27 年国勢調査小地域集計より作成)



参考資料：IIHOE「ソシオ・マネジメント第3号『小規模多機能自治』」

## データ例② 総務省統計局「地図による小地域分析 (j STAT MAP)」

政府統計の総合窓口「e-Stat」における国勢調査を中心とした小地域データを地図と連動して提供しています。様々な機能のうち「リッチレポートを作成する」ことにより、「施設から徒歩5分圏」などと生活圏域設定を設定したうえで、圏域内の年齢別人口や住宅の種類、人口増減の傾向などを知ることができます。

また、国土交通省 GIS ホームページに掲載されている施設やバス停などのデータをアップロードして、サーバーで重ね合わせて分析することも可能であり、学校などの公共施設や福祉施設の利用圏域と人口特性などについて分析できます。

